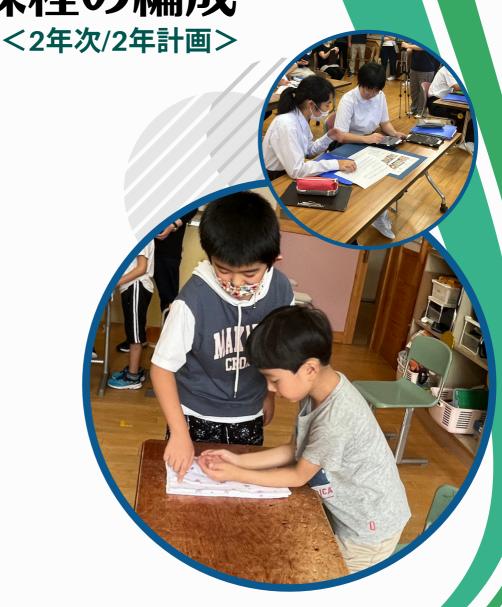




令和5年度 研究報告

児童生徒が学びをつなぐ 教育課程の編成



秋田県立ゆり支援学校



# 研究主題 「児童生徒が学びをつなぐ」教育課程の編成 (2年次/2年計画)

#### 研究主題設定の理由

#### 過年度研究の成果

令和4年度は、音楽科、職業・家庭科、保健体育科の三つの教科WGを柱とした研究を推進した。

#### 【成果】

- ・校内外の人材活用による本物の体験ができた。
- ・各教科等との関連の充実が図られた。
- ・「学びをつなげる」教師の意識の向上が見られた。
- ・他学部とのつながりを確認できた。
- ・人材活用による学ぶ意欲や体力の向上が見られた。 【課題・今後に向けて】
- ・教科WGと学部研究の両立が難しく、学部内のつながりを意識することができなかった。
- ・令和5年度から中学部に「職業・家庭科」を新設することとした。
- ・学習指導要領の着実な実施に向けた年間指導計画の 内容と活用を検討したい。
- ・学部間のつながりを意識した弾力的な校内職員の活用をしたい。
- ・「何を学ぶか」を見通す児童生徒との計画、目標、 評価の共有をしたい。

令和4年度研究の成果と課題を踏まえ、令和5年度は、次の3点を中心に取り組むこととした。

- ・学部を中心とした授業実践、研究推進をする。
- ・教科の系統性や、他教科等にどのように学びをつ なげているかという視点で児童生徒の変容を見取 る。
- ・児童生徒の「思いや願い」を大切にした授業実践 をするために、年間指導計画や\*「未来へのスケッ チ」の様式を活用できるものに変更する。

本校の目指す学校像、昨年度までの研究の取組、 社会的背景を踏まえ、本研究主題「『児童生徒が学 びをつなぐ』教育課程の編成」を設定した。

#### 目指す学校像

地域と共に歩み や 地域で育ち 地域に必要とされる ゆり支援学校



【令和5年度の研究対象授業】

\*ゆり支援学校版キャリア・パスポート

#### 研究仮説



児童生徒の思いや願い をくみ取った授業計画

児童生徒の学びをつなぐ 様子を見取る 学びの履歴を視覚的に示す

年間指導計画の活用 未来へのスケッチの活用 児童生徒の育成教育課程の編成

生涯にわたって

学び続ける

### 「児童生徒が学びをつなぐ」とは

児童生徒が学びを見通したり、学んだことを活用し、次の学びに生かしたりしている状況を指している。 また、児童生徒が学びをつなぐために、教師は学びをつなげる様々な支援を行う。

#### 「学びをつなぐ対象」は

次の学び(学習)、他の場面(家庭や寄宿舎、地域社会)、他教科等、学年や学部間、キャリア教育の 視点を想定している。

### 研究の内容と方法

年間指導計画を授業や評価に活用できる様式に変更

学習指導要領の段階や内容を記入 評価に、視覚的に分かりやすいよう 教材や板書を入れる

全校縦割りでの授業デザインミー ティングの実施

単元、授業内容、児童生徒の変容 を検討、共有する









児童生徒の「思いや願い」を大切にした実践

「未来へのスケッチ」を活用し、 情報共有する

「何を学んだか」「どのように学 んだか」という目標や評価の共有

生徒が学びを振り返り、日々の授業の振り返りや学びの積み重ねが 見えるように工夫する



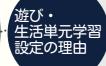
# 小学部の授業づくり

#### はじめに

児童の実態

#### 〈低学年〉

- ・身近な人や自分の学級が分かる。
- ・毎日繰り返す活動は定着してきた。 〈高学年〉
- ・仲間意識があり、学び合う姿が見られる。
- ・取組を家庭と十分共有するのが難しい。



- ・将来の生活につながるように、興味・関心を広げ、生活経験や伝える経験を積み重ねたい。
- 「未来へのスケッチ」を活用して、取組を学校・家庭で共有したい。



- ・目指す姿を具体的に設定し、児童の変容を基に 指導・支援について検討する。
- ・教科横断的な視点、学年・学部間のつながりを 意識した視点で、授業実践を積み重ねる。



【小学部1、2年 遊びの指導】



【小学部4年 生活単元学習】

# 授業づくりの実際

小学部4年 生活単元学習 チャレンジ8~たたみ名人になって2年生を助けよう~



#### <授業者のしかけ>

話し合い活動のグルーピングを工夫

~全員が話合いに参加できるよう、中心となり進める児童、友達の話を聞いて考えをもつ児童、友達の意見を聞いて意思表示する児童を配置~



#### <児童の様子>

- ・話すことが得意な児童は自分の意見を伝えるだけでなく、「○○さんはどう?」「どっちがいい?」と友達に問いかける姿が見られた。
- ・友達の意見を聞いて同意や意見をしたり、複数の意見から選択したりしな がら自分の考えを伝えることができた。





#### <授業者のしかけ>

どんな教え方が分かりやすいか考えられるよう、教師が悪い例を演示 〜児童が自分で課題に気付くために〜



#### <児童の様子>

・教師の話し方、畳み方などの悪い例を見て、「声が小さい」「聞こえない」「見えない」など自発的に気付いたことをつぶやいていた。そのつぶやきに対して「どうしたらいいかな?」と発問すると、「大きな声」「気を付けの姿勢」などと答えており、どうしたら分かりやすいか考えることができていた。





#### <授業者のしかけ>

めあてや話合いの内容につながる場面でのICTの活用 〜教師の演示を事前に録画し、大きなモニターで提示〜



#### <児童の様子>

- ・モニターに映したことで注目して見ていた。
  - ・話合い活動の際に、何度も見返したり、注目してほしい部分を止めたりし ながら見たことで、自分の考えを整理して伝えることができた。





<授業者のしかけ> 視覚的教材の活用

~話合い活動で、児童の意見を引き出すために、児童の実態に応じてイラ ストカードや静止画を提示~



#### <児童の様子>

・教師の演示の録画や話だけでは理解が難しい児童も、イラストや絵を見て 自分の考えを思い付いたり、選択して伝えたりすることができた。



#### まとめ



# 児童が学びをつなぐ授業づくり

#### 〈低学年〉

- ・素材でじっくり遊ぶ経験
- ・メリハリをつけた展開の工夫



- ◎興味・関心の拡大
- ◎「楽しい」「もっとやりたい」気持ちを伝えようとする姿

#### 〈高学年〉

- ・下学年に教えるなど見本となる場面の設定
- ・話合い活動で意見を伝え合う経験
- 校内の人材活用



学びをつなぐ

授業づくり

教師の関わり方



◎学習意欲、生活スキルの向上



#### 児童の変容

#### 〈低学年〉

- ・学級の所属意識・仲間意識の高まり
- ・約束やルールを守って遊ぶ



#### 〈高学年〉

- ・話合いのルールや約束を繰り返し確認
- ◎児童同士で意見を伝え合う
- ◎挙手して発言する、分からないときは聞 くなどルールの理解



#### 教師の関わり方の変容

- ・子ども理解シートを基にした丁寧な実態把握
- →児童の目指す姿の焦点化、職員の共通理解・
- ・児童の変容と有効な支援を協議・検証
  - →職員の意識の変容、一貫した指導
- 「未来へのスケッチ」を活用した家庭との連携
- →実態に合わせた様式、活用方法の工夫を検討 していく必要性

#### 【子ども理解シート内容】

- 実態把握(自立活動の視点から)
- 背景要因
  - (~できる。~のため困難が生じている。)
- 3 課題と目指す姿
  - (1年後の姿、個別の指導計画年間目標から)
- 4 指導目標(自立活動の視点から)
- 指導内容(具体的な指導内容や手立て、環境設定)



遊びの指導の方向性

【秋田大学名誉教授 武田篤先生指導助言より】

#### レベルアップを目指そう

進んで自分から挨拶をする。 場に応じた言葉遣いをする。 。 身だしなみを整゚える。**♪♪** 身の間りの整理整頓をする。 時間を守る。

首分の首標をもち、最後までやり抜く。 進んで考えたり、エ夫したりしながら生活を よりよくしようとする。**[[<sup>2</sup>]** 

進んで任事を見付け、みんなのために働ぐ。 相手の意見や立場を理解し、その人の気持ち を考えて行動する。

誰とでも゙゙協力゙して活動に取り紅む。 約束やきまりを進んで守る。

【「未来へのスケッチ」目標設定の参考資料】

#### 今後に向けて

- ・丁寧な実態把握が効果的な指導・支援、児童の変 容へつながった。今年度の成果をもとに、さらに 学び合いを深めることのできる授業の展開を工夫 したい。
- ・今年度、 「未来へのスケッチ」を活用した連携に 一定の効果があった。今後、家庭へ作成の意義や 活用の仕方を丁寧に伝える、実態に合う様式の検 討をさらに進めることで、児童の学びの定着と中 学部・高等部へのスムーズな接続につなげたい。



児童の変容



# 中学部の授業づくり

### はじめに



- ・将来への夢や目標を漠然と考えている。
- ・学んだことは知識として獲得しているが、 継続して取り組まないと忘れてしまう。
- ・自己理解が適切ではない。
- ・相手の立場に立って考えることが難しい。



- ・将来の生活を見据えて中学部段階から教 科として系統的に指導したい。
- ・高等部へのつながりを意識して指導したい。・「未来へのスケッチ」を活用して、将来に向けて自分を見つめ直す機会を設定し

学部研究・生徒には自分の目標をもち振り返る活動を

たい。



- 「未来へのスケッチ」作成
- ・家庭との情報共有
- 1か月ごとに更新し、 積み重ねる



中学部研究 のゴール

大切にし、自分の将来を自分で考えたり、 できることを増やしたりしてほしい。

### 授業づくりの実際

中学部2年 職業・家庭科 中学部と高等部の違いについて~今の自分にできること~



<授業者のしかけ>

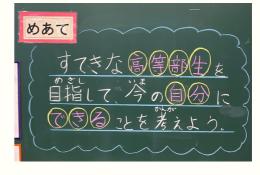
めあての提示の仕方

~めあてを共有するために穴埋めで提示~



#### <生徒の様子>

・めあての一部を穴埋めで提示することで、空欄に何が入るだろうと考えたり、黒板やホワイトボードの掲示物をよく見たりして全員でめあての共有ができた。





#### <授業者のしかけ>

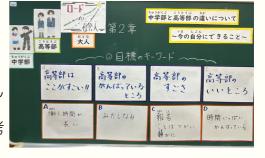
キーワードについて具体的な質問をする

~前時の振り返りとめあての具体化~



#### <生徒の様子>

・前時までにグループでまとめた際のキーワードを提示してそのキーワードについて具体的に質問することで、「集中して作業」や「報告の仕方がよい」など目標を考える上で参考となる内容を話した。





#### <授業者のしかけ>

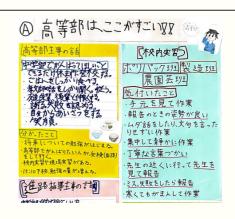
目標を考えるためのヒントを提示する

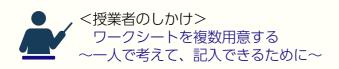
~ 困ったときに手掛かりにできるように~



#### <生徒の様子>

・パワーアップ週間での作業の様子やグループで作ったまとめの模造紙、中学部作業学習5箇条をタブレット端末に入れていつでも見られるようにすることで、タブレット端末の資料を見ながらヒントを得て一人でワークシートを書くことができた。







#### <生徒の様子>

・文字を書くことが苦手な生徒には選択肢から選んで答 えられるようにすることで、自分の考えを選び、時間 いっぱい課題に向かっていた。

			○成幸師家の将翼を置や被防翼を重かったところは どこですか、○をつけましょう。 ○相手に 聞こえるこえで 蓋す 「~です」「~ます」をつけて 話す 分からないときは すぐに聞く		
ファの自分の作業の様子はとうですか。 1 挨拶、返事、丁寧な言葉遣い	796	63726	8% IE 5 1	① すそやえりなど 身だしなみを整え	
→「おつかれさまです」「はい」				( ) 時間に 遅れない	
「です」「ます」をつけて話している				しずかに 作業する	
2 鼻だしなみを整える	455	69726	WARES S	休憩時間は ゆっくり 休む	
→シャツ えり つめ ハンカチ	$\wedge$			終わりの時間になるまで 作業をする	
ティッシュがポケットに入っている	$\cup$			話を する人を 見て聞く	
				すぐに行動する	
3. 時間を守る	794	65926	#4.E55	○ すぐに 行動する	
→作業に間に合うように 教室にいる	0				
	,			○これまで勉強をしてきて、今の自分にできること (がん	
4 集中して作業する	796	61726	PAUS 3	いこと) はなんですか。	
→静かに作業 手元を見て作業	0			さきっかときにあないように	
		-			
5 素直な態度	72,6	65926	#4.E51		
→いわれたことをすぐにやる 「ありがとうございます」「ごめんなさい」	$\cap$				

#### まとめ



### 生徒が学びをつなぐ授業づくり

- ・職業分野は作業学習や日常生活とリンク
- ・家庭分野は生活単元学習と関連付けて指導



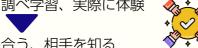
- ・他学部の教師、栄養士など専門的な知識をもった人材活用
- ・身近な高等部の先輩
- ◎学ぶ意欲の向上、先輩へのあこがれ
- ◎○○を頑張るなど、考えることにつながる





### 生徒の変容

・話合い活動、調べ学習、実際に体験



- ・お互いに認め合う、相手を知る
- ・自分を知り受け入れられるようになった



- 「未来へのスケッチ」「作業学習の5箇条」を活用
- ◎目標や夢について自分ごととして考える
- ◎学校で習ったことを家庭でも実践



### 教師の関わり方の変容

- ・職業・家庭科の教科としての授業
  - →教科のねらい、生徒の学びをつなぐために意識して関わる
- 「未来へのスケッチ」を学校生活や家庭生活と結びつける重 要性を生徒に気付かせる指導、支援
- ・職業・家庭科の「中学部で身に付けさせたい力」をまとめ、 中学部の基盤として自己理解を育み、日常生活とのつながり を大切にして進めることを確認



【学んだことをまとめる生徒】

# 中学部作業学習の 5 箇条

(1) あいさつ・返事・ていねいな言葉遣いをする。



相手に聞こえる声ではっきり 相手に陥しくるが、相手の間に行って、止まって話す 「できました、見てください」「わかりません、教えてください」 「~です」「~です」「~ですか」 質問に対してすぐに答える。

2 身だしなみを整える。



鏡を見て、身だしなみを整える ベルト、上着の裾、襟元の確認 ハンカチ、ティッシュの確認 爪の長さ

(3)

時間を守る。

- 約束の時間を守る 時計をよく見て時間に遅れない 5分削行動を心がける タイマーなどの合図で、次の活動に取り組む 働くとき、休むときにメリハリを付ける

4 集中して最後まで仕事をする。



- 自分の役割が分かり、集中する 作業中は話をしない
- 作業場所から離れない 目標の数を作る
- 時間になるまで作業をする 休憩時間はゆっくり休む



素直な態度。



- 「ありがとうございます」「間違えました、すみません」
- 話をする人の方を見て聞く 教師からの言葉掛けや話を素直に受け入れる



# 今後に向けて

- ・自己理解や他者理解は他者との協働学習や体験で 育まれるものであり、知識を積み重ねる職業・家 庭科を展開するだけでなく、仲間と課題を解決し ていく生活単元学習も大事にしながら授業づくり を展開したい。
- ・生徒自身が等身大の自分を知ることができるよう に、生徒の得意なこと、よさを伸ばしつつ、少し 苦手な部分を補っていけるように指導・支援をし ていきたい。



# 高等部の授業づくり

#### はじめに



- ・発達障害を併せもつ生徒が増加している。
- ・集団でのルールについて意識が低い生徒や関わり方 でトラブルになる生徒もいる。
- 自己理解が不十分。
- ・経験不足によって、自信のなさから行動できない生 徒もいる。



・卒業後の生活を見据えた『学びをつなぐ』授業 実践をしたい。

・生活の中で生かせる知識・技能の定着を進める ことで、自信をもって取り組めるようにしたい。

高等部研究 のゴール

- ・地域資源(人材、施設または場)を活用した授業を 実践し、卒業後の社会生活に生かせるようにする。
- ・実践的・発展的な学習を行い、学んだことを定着さ せる。
- ・他教科との関連付けや、家庭寄宿舎との連携を図り、 汎化できるようにする。



# 高等部が目指すゴール

実践的・発展的な学習



学んだことを定着 させ次の学びに...

#### 学びをつなぎ、汎化





家庭・寄宿舎 他教科との との連携 関連

#### 卒業後の生活の土台作り





施設



### 授業づくりの実際

#### 高等部3年 職業科川グループ 卒業後に生かせる施設を知ろう



#### <授業者のしかけ>

自分の考えや調べたことをまとめやすくするためのワークシートの活用 ~休日のスケジュールを立てる際に実際の活動をイメージしやすいように、 「どこへ」「だれと」「なにをしに」「なにで」など項目を細分化~



#### <生徒の様子>

・項目を細かく分けたことで、休日にやりたいことに友達の発表を取り入れ たり、自分の行きたい場所、やりたいことを優先して記入したりなど主体 的に考える姿が見られた。





#### <授業者のしかけ>

自分の考えを話合いに生かすための工夫 ~個別の活動からペアでの活動に~



#### <生徒の様子>

個別に自分の考えや調べたことをワークシートにまとめた後で、ペアでの 活動を設定したことで、お互いが積極的に発言し合ったり、相手の意見を 尊重したりしながら話合いを進めることができていた。





#### <授業者のしかけ>

教師の例示や生徒の発表場面でのICTの活用 ~アプリの積極的な活用や一人一人の考えの共有~



#### <生徒の様子>

- ・検索やスケジュールを立てるためのアプリの使い方を大型モニターを使っ て教師が例示したことで、自分からアプリを使いスケジュールを立てたり、 発表の際の言葉を選ぶために検索をしたりする姿が見られた。
- ・生徒の記入したワークシートを大型モニターに表示しながら発表をしたこ とで、友達の意見のよかったところを取り入れるなど、一人一人の意見を 全員で共有できていた。





<授業者のしかけ>

写真などを使った振り返り活動の充実

〜校外学習での実際の経験を発表活動やスケジュールを立てる活動に生か すために〜



#### <生徒の様子>

- ・気付いたところを自分たちで撮影した写真で振り返りながら発表資料の作成や発表をしたことで、発表では、自分たちが伝えたいおすすめポイントを具体的に表現できた。
- ・振り返りで使用した写真を使った発表を聞いたことで、実際に経験したことを思い出し、休日のスケジュールを立てた。



#### まとめ



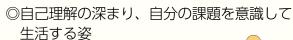
#### 生徒が学びをつなぐ授業づくり

地域資源を活用した授業づくり

- ・E サポートの見学・相談、地域施設の利用、 手話教室、救命講習会など
- ◎卒業後も生かせる知識、技能を身に付けた。

「未来へのスケッチ」の活用方法の工夫

- ・朝の会での目標発表、帰りの会での自己評価、 他者評価
- ・現場実習の課題を「未来へのスケッチ」の目標に反映させ、日常生活に結びつける授業づくり





# 生徒の変容

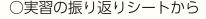
「未来へのスケッチ」の活用

- ・自分の課題を自分事として取り組む生徒の増加
- ・自信をもって様々な場面で積極的に取り組む姿



生徒同士の学び合いから学ぶ・生かす場の設定

◎友達の意見を自分事として捉え、生活に生かそうとする姿



#### ○目標は

- ・作業に緊張感をもって取り組む
- ・朝に身支度を調える

でした

- ○成長したこと、できるようになったこと、 自信が付いたこと
- 話をするときに目を見て話せるようになりました。
- ・自分の思ったことをすぐに話せるようになりました。
- ・時間に余裕をもって通勤できました。
- ○Ⅱ期の実習に向けて頑張りたいことは
- ・色々な人に声を掛けてもらえるように、自分から周りの人に声掛けするのを頑張りたいです。
- ・身支度をするために自分の起きる時間の30分前に起床 する。(余裕をもつ、毎日決まった期間)



【地図検索アプリで調べた

スケジュールで活動】

#### 未来の夢や目標

自分の将来の夢に向けて 本格的に自分のできてい ないことをできるように したい。一人暮らしをす いるための能力を身に付 けたい。 未来へのスケッチ

年 組 名前

家庭や地域で挑戦すること(手伝いや余暇など) ・早起きができるようにスマホのアラームが鳴ったら 庭 オクに起きる

すぐに起きる。
・洗濯で干す、畳むに挑戦する。

\* ////EC | 9

地域

#### <sup>或</sup> 支援してほしいこと

・私にできそうな家事を一緒に見付けてほしい。

【実習の振り返りから「未来へのスケッチ」へ タイムリーに反映されている】



# ☆ 教師の関わり方の変容

卒業後の社会生活を見据えた授業実践

- ・学びの定着から汎化へつなげる意識の向上
- ・「未来へのスケッチ」の活用の工夫

生徒自身が成長を実感し、目標を意識した言動が できるように支援

# 今後に向けて

- ・「未来へのスケッチ」を活用し、家庭や寄宿舎との連携ツールとして、個別の教育支援計画との関連性をもたせたり、共有したりする機会をもたせたりして、生活の場へ汎化したい。
- ・生徒の課題や目標、願いについて、「未来へのスケッチ」や実習の評価表、巡回記録について回覧するなどして、学部職員全体で情報共有を図り、 授業実践していきたい。



教師の関わり方



# 寄宿舎の研究

### はじめに



・寄宿舎生活で身に付けた力を他の場面 では十分に発揮できていない。



- ・生徒の学びをつなぐ生活指導の実践を したい。
- ・身につけた力を生かす場面づくりや、 環境づくりをしたい。



卒業後の生活で必要な力を身に付け、 その力を生かして生活する生徒を育む。

# 🥋 寄宿舎の生活指導について 🥾



#### 指導グループを中心とした日常生活の指導

「食事・健康管理」「入浴・洗濯・身なり」 除・整理整頓 | の3グループで基本的生活習慣 の習得と定着を目指している。生活に関する知 識やスキル向上のため、各グループ年2回の勉 強会を実施している。

# おおぞらシートを活用した個別の生活指導計画

「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」 との関連性を考慮し、将来の生活に向けて、 寄宿舎生活での目標を設定。目標達成のため におおぞらシートを活用した生徒との対話か ら、生徒の思いや願いを大切にした指導をし ている。 🎆

# 生活指導の実際



# 🌭 日常の生活指導グループを中心とした生活指導

#### 〈日常生活テキストブック〉

- 日常生活について分からないことを調べたり、 見て確かめたりするためのツール
- ・勉強会や日々の生活で、分からないことを確認
- ・勉強会で学んだことの振り返り等への活用



生徒が自身の生活をより良くするために 情報収集する力につなげたい



# 〈生徒が主体的に学ぶ勉強会〉

生活に関する知識やスキルの向上に向け生徒が主体的に学ぶ場

・様式の見直し・話合いの充実から生徒が興味・関心をもって いる内容、視覚的に工夫した教材の活用、体験的な活動、教 え合う場面が設定された勉強会の実施



生徒の主体的に学ぶ姿勢や 継続した指導から生活力の定着につなげたい



# ✓おおぞらシートを活用した個別の生活指導計画

# 〈おおぞらシート〉

将来の目標に向けて、今何をしなければならないのかを 考え、取組の過程を記入するシート

- ・生徒の思いや願いを大切にした目標設定
- ・生徒との対話を通した取組や振り返り、学部・保護者との連携

家庭生活・社会生活など様々な場面で生かせる 生活力を身に付けさせたい





【日常生活テキストブック 洗顔の仕方】



【勉強会の実施計画・記録・評価シート】





【おおぞらシート・長期休業中の取組】

# ∮別 身につけた力を生かす場面と環境作り

#### <体験活動を重視した行事の場面>

- ・寄宿舎行事(夏祭り、おおぞらパーティー) 実行委員が中心に話し合って計画。得意なことや 苦手なことから役割分担をし、準備をした。
- ・余暇活動(おおぞらグループ活動、部屋活動) **2** グループの友達と調べて話し合い、計画を立てる 期間を設定。楽しみながら調べ、話し合い、互い に伝え合うことを目的とした。

#### <日々の生活指導場面>

- ・優先順位や時間配分を考え、時間に合わせて行動、 生活できる環境づくり
- ・友達同士で相談し、話合いで解決する場面づくり

#### <学部・保護者との連携>

学 部:授業での寄宿舎活用

個別の指導の方向性を確認する話合い

保護者:おおぞらシートを活用した指導経過の確認







【夏祭りと準備の様子から】

- ・行事や余暇等の楽しい活動を通して調べ、話合いを行い、生活を楽しむ、より良くする経験ができるようにしたい。
- ・優先順位や時間配分を考えて生活する力を身に付けたい。
- ・家庭や学校、社会等様々な場面で身に付けた力を 生かして生活できるようにしたい。

### まとめ

# ◇ 生徒が学びをつなぐ生活指導

指導グループを中心とした日常生活指導

- ・日常生活指導テキストブックの作成
- ・勉強会の見直し



勉強会と日々の指導につながり継続した指導ができた 学んだことが定着、個別の目標達成にもつながった。

日常の生活指導と個別の生活指導のつながり身に付けたことを生徒同士で教え合う学び合う姿







【勉強会の様子から】

# 80

# 生徒の変容

おおぞらシートの活用 何ができるようになりたいか どうしたらできるようになるか 主体的に学ぶ勉強会の実施 学んだことを基に考える・工夫する 得意なことを教える

自分で考えて生活する環境づくり

生徒同士のコミュニケーションから自己理解・他者理解を深める

生活経験が異なる生徒同士が教え合う、助け合う♪



生活経験が異なる生徒同士が教え合う、助け合う →他者理解や自己理解へ

友達の存在への憧れ→手本をまねて行う 先輩の姿→将来や次の活動へのイメージへ 家庭での役割・生活の楽しみ→次の意欲へ



# 指導員の関わり方の変容

指導グループでの話合いの充実

- ・興味・関心をもてるしかけ、視覚的な教材の活用おおぞらシート活用した個別の生活指導
- ・生徒の対話から思いや願いを聞き取り、目標設定に生かす 身に付けた力を生かす場面と環境づくり
- ・自分で考えて生活する場面設定、生徒に気付かせる指導・支援

# 今後に向けて

- ・勉強会と日々の指導につながりをもたせた 指導を継続したい。
- ・振り返りで、目標達成のために何を行った か確認することに課題がある。様式の検討 をし、学びの履歴を視覚的に分かりやすく したい。
- ・生徒が考えて生活できる環境をつくり、気 持ちよく生活するために友達同士で相談し、 話合いで解決する場面設定を継続したい。
- ・家庭や学部との連携から家庭生活や社会生活に生かせる生活力を育てていきたい。



# 研究のまとめ

### 研究の成果



# 「児童生徒が学びをつなぐ」教育課程の編成

小学部 低学年 小学部 高学年

中学部

高等部

寄宿舎

# 児童生徒が学びをつなぐ授業づくりのポイント

活動内容や学習展開 の工夫をして興味・ 関心の幅を広げる



校内人材を活用し、 第三者からの評価で 自信へつなげる



学んだ履歴を視覚的 にまとめて掲示、振 り返りの時間を確保 する



卒業後の生活を見据 え、地域資源を活用 し、学校生活全体に 学びをつなげる



計画・記録・評価の 流れを明確にし、勉 強会と日々の指導と つながりをもたせる



# 児童生徒が学びをつないだ姿や変容

学級での所属意識が 高まり、約束やルー ルを守ろうとするよ うになってきた。ま た、相手の気持ちを 考え歩み寄ることも 増えてきた。



01

03

教師が児童同士をつ なぐ言葉掛けをして きたことで、意見を まとめたり、友達の 意見を聞いたりする ようになってきた。



1か月ごとに目標設定と振り返りを積み重ねたことで、目標や夢について自分ごととして考えられるようになってきた。



夢や希望を叶えるために努力し、今の頑張りが卒業後につながることを実感できるようになった生徒が増えた。



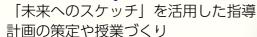
生活経験が異なる友達の様子、会話から自分が身に付けた方法や習慣の他に様々な方法があることに気付いた。



# 児童生徒が学びをつなぐために

児童生徒の思いや願いが 反映される授業づくり

・児童生徒の学びたい、やってみたい、○○したいという願いや思いを受け止めて授業づくりに反映





# 現行の教育課程の見直し

・授業デザインミーティングで得られた成果、児童生徒や保護者のニーズ、要望等を基に学部間の「学びの連続性」やキャリア教育の視点も考慮した教育課程の見直し

「未来へのスケッチ」を効果的に活用して学校と寄宿舎及び家庭との連携を図る。



# 02 児童生徒による評価

・児童生徒自身が目標をもち学校や 家庭生活を過ごす

定期的に振り返りや自己評価、他者評価ができる仕組みづくり





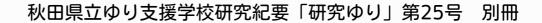
「未来へのスケッチ」 を授業づくりに生かす







学校での取組や「未 来へのスケッチ」を 寄宿舎と情報共有・ 連携 「未来へのスケッチ」 の取組を家庭と情報共 有・連携



印刷・発行 令和6年3月 発行 秋田県立ゆり支援学校 〒015-0885 秋田県由利本荘市水林456-3 TEL 0184-27-2630 FAX 0184-22-8706 研究紀要本文は本校HPを御覧ください。

本校HP

